重点目標３　説明資料【資料③－２】

図中の枠は、設定している指標を表している。「具体的施策」の枠はアウトプット指標、「基本的な方向」の枠はアウトカム指標、「重点目標」の枠はインパクトの指標である。

具体的施策⑴空き家の活用による定住基盤の整備

- 空き家バンクの年間登録物件数（現状値：60件　目標値：現状値を維持）
- 空き家バンク物件の年間成約件数（現状値：18件　目標値：現状値を維持）

■主な事業
・空き家・空き地バンク事業
・空き家の活用推進・定住促進員設置事業

具体的施策⑵移住支援と地域に関わる人材の受け入れ

- 移住相談会への参加回数（現状値：2回　目標値：現状値を維持）
- 地域おこし協力隊員人数【延べ】（現状値：21人　目標値：27人）

■主な事業
・東京圏在住者移住支援事業・移住相談会・地域おこし協力隊制度

具体的施策⑴観光資源の価値向上

- 国見の森公園プログラム参加者数（現状値：42.5千人　目標値：43.1千人）
- 道の駅利用者数【延べ】（現状値：315千人　目標値：330千人）
- 宍粟市文化財保存活用地域計画協議会による効果検証（現状値：年１回　目標値：現状値を維持）
- 音水湖カヌー競技場施設利用者数【延べ】（現状値：8,848人　目標値：11,000人）

■主な事業
・観光イベント補助事業・しそう森林王国観光協会支援事業・道の駅管理運営事業・文化財保存活用事業
・音水湖（引原ダム）エリアの利活用推進事業

具体的施策⑵森林資源を活かした地域価値の向上

- 広葉樹転換面積【累計】（現状値：0.45ha　目標値：1ha）
- 再生可能エネルギー自給率（現状値：92.5%　目標値：100%）
- 森林吸収系Jークレジット累計認証量（現状値：902t-CO2　目標値：19,000t-CO2）
- 森林セラピー体験者数【延べ】（現状値：695人　目標値：1,000人）

■主な事業
・彩りの森づくり事業・再生可能エネルギー利用促進補助事業・森林環境ポイント制度
・森林吸収系Jークレジット創出事業・森林セラピー推進事業

具体的施策⑶関係人口の創出

- 返礼品登録事業者数【累計】（現状値：48事業者　目標値：67事業者）
- ガバメントクラウドファンディング型ふるさと宍粟寄付金交付件数（現状値：0件　目標値：5件）
- ふるさと住民登録制度（現状値：ー　目標値：2029年度開始事業のため目標値未設定）
- 保育園留学利用世帯数【累計】（現状値：ー　目標値：63世帯）

■主な事業
・ふるさと納税推進事業・ガバメントクラウドファンディング型ふるさと宍粟寄付金交付事業・ふるさと住民登録制度【新規】
・千種地域保育園留学事業【新規】

具体的施策⑴木育を通じた森林文化の継承

- 園児木育イベントの開催回数（現状値：２回　目標値：現状値を維持）
- 木育新聞発行回数（現状値：４回　目標値：現状値を維持）
- 園児木育講座参加園数（現状値：11園数　目標値：14園）
- 宍粟市産木材の学習机の整備率（現状値：56.1%　目標値：100%）
- 誕生祝い品贈呈事業（出生に伴う贈呈のため、目標値設定無）

■主な事業
・森林大学校での園児木育イベントの開催・木育新聞（みどりじまん新聞）の発行・園児木育講座の実施
・宍粟材を活用した児童生徒用学習机整備事業・誕生祝い品贈呈事業

具体的施策⑵「発酵のふるさと宍粟」を軸とした地域ブランドの発信

- アンケート回答者数（現状値：239人　目標値：478人）
- 参加小学校数（現状値：10校　目標値：現状値を維持）
- 発酵食レシピ応募数（現状値：ー　目標値：34件）
- 発酵教室年間開催回数（現状値：5回　目標値：現状値を維持）

■主な事業
・しそう発酵フェアの開催・市内小学校味噌づくりサポート事業・発酵食レシピ募集事業（小中学生向け）・発酵教室の開催

基本的な方向１
移住・定住の促進

住宅取得支援を利用した移住者数
（現状値：５１人　目標値：現状値を維持）

人口減少のなかにおいても、継続した移住者数の維持を目標とする。

基本的な方向２
地域資源の魅力と価値向上によるつながりの拡大

観光入込客数
（現状値：８８０千人　目標値：１，１１０千人）

１年につき概ね40千人程度の増加を目標とする。

基本的な方向３
地域ブランドの形成と誇りあるふるさとづくり

「将来的に宍粟市に住みたい」と思う中高生の割合
（現状値：５７．７%　目標値：７５%）

４人中、３人が将来的に宍粟市に住みたいと思うことを目標とする。

重点目標３

選ばれる
～若者や女性に選ばれ、世代を超えて誇れるふるさとをつくる～

転出超過数
現状値：３１６人　目標値：１６６人

人口ビジョンにおいて、2030年の目標値が185人であり、2035年の目標値は90人。１年あたり19人抑制の必要があるため、2031年時点では185-19=166人を設定する。

重点目標３　選ばれる～若者や女性に選ばれ、世代を超えて誇れるふるさとをつくる～

基本的な方向１　移住・定住の促進

アウトカム指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
住宅取得支援を利用した移住者数	51	人	現状値を維持		担当課保有の管理台帳	人口減少のなかにおいても、継続した移住者数の維持を目標とする。		
具体的施策（１）空き家の活用による定住基盤の整備								
アウトプット指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
空き家バンクの年間登録物件数	60	件	現状値を維持		第2次宍粟市空き家等対策計画（令和8年3月）での数値目標	第2次宍粟市空き家等対策計画に準拠し、空き家バンクへの登録目標を60件/年とする。	空き家・空き地バンク事業	空き家等の状況を調査し、所有者等に対して適正な管理を行うよう助言や指導を行う。
空き家バンク物件の年間成約件数（移住）	18	件	現状値を維持		担当課保有の管理台帳	平成29年度～令和7年度の成約件数（移住者）が158件で、平均すると158件÷9年≒18件/年となる。今後も継続した取り組みを行うことから、現状維持の18件を設定。	空き家の活用推進	市内の空き家・空き地を有効活用し、都市住民との交流及び定住促進による地域の活性化を図る。
							定住促進員設置事業	移住希望者等に対する相談対応や空き家・空き地バンク物件における物件案内、移住後のフォローなど、定住促進に向けたきめ細やかな支援を行う定住促進員を設置する。
具体的施策（２）移住支援と地域に関わる人材の受け入れ								
アウトプット指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
移住相談会への参加回数	2	回	現状値を維持		担当課保有の管理台帳	移住相談会への参加等、移住施策にも取り組むことから、現状の2回/年を今後も維持することを目標に設定。　（東京1回、大阪1回）	東京圏在住者移住支援事業	東京圏から移住して就業、起業する方に移住に係る費用の一部を助成する。
							移住相談会	東京・大阪で開催される移住相談会において、空き家バンクの紹介や宍粟市のPRを行う。
地域おこし協力隊員人数【延べ】	21	人	27	人	担当課保有の管理台帳	１年につき１人の増加を目標とする。	地域おこし協力隊制度	地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで地域力の維持・強化を図る。

重点目標３　選ばれる～若者や女性に選ばれ、世代を超えて誇れるふるさとをつくる～

基本的な方向２　地域資源の魅力と価値向上によるつながりの拡大

アウトカム指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
観光入込客数	880	千人	1,110	千人	兵庫県観光動態調査	１年につき概ね40千人程度の増加を目標とする。		

具体的施策（１）観光資源の価値向上

アウトプット指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
国見の森公園プログラム参加者数	42.5	千人	43.1	千人	担当課保有の管理台帳	１年ごとに概ね100人程度の増加を目標とする。	観光イベント補助事業	観光振興に関する民間主体の各種イベント事業を支援することにより、民間主導の地域づくりを促進し、多様な交流の促進による観光振興と活力ある地域づくりを図る。
							しそう森林王国観光協会支援事業	観光関係者の観光振興に関する組織的及び総合的な活動を支援することにより、効果的な観光振興対策を促進し、観光産業の振興と地域の活性化を図る。
道の駅利用者【延べ】	315	千人	330	千人	各道の駅からの年間事業報告	１年につき概ね2,500人程度の増加を目標とする。	道の駅管理運営事業	市内に４つある道の駅間の連携やイベント情報の共有等の連絡体制を推進する。
宍粟市文化財保存活用地域計画協議会による効果検証	1	回/年	現状値を維持		担当課保有の管理台帳	毎年の継続的な効果検証を目標とする。	文化財保存活用事業	令和７年１２月に策定した宍粟市文化財保存活用地域計画を推進し、歴史文化の魅力あふれる地域づくりの資源として活用を図る。
音水湖カヌー競技場施設利用者数【延べ】	8,848	人	11,000	人	担当課保有の管理台帳	コロナ禍以降、減少傾向にある利用者数ではあるが、以前の利用者数を維持することを目標とする。	音水湖（引原ダム）エリアの利活用推進事業	音水湖（引原ダム）におけるカヌー等での自然体験やカヌー競技大会等の誘致などにより、交流人口の増加と地域活性化に取り組む。

具体的施策（２）森林資源を活かした地域価値の向上

アウトプット指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
広葉樹転換面積【累計】	0.45	ha	1.00	ha	担当課保有の管理台帳	日本一の風景街道にふさわしい美しい森林景観の形成と生物多様性の保全を推進するため、自治会等による広葉樹転換への推進を設定する。（0.2ha/年）	彩りの森づくり事業	里山林整備の中で広葉樹等の植栽を促進し、環境保全を図るとともに、彩りのある美しい里山の原風景を広げる。
再生可能エネルギー自給率	92.5	%	100	%	温対法に基づく、地方公共団体実行計画（区域施策編）策定実施マニュアルを参考（数値は産業・運輸部門は除く）に担当課にて算出	地球温暖化防止と持続可能なゼロカーボンシティの実現を推進するため、再生可能エネルギー自給率100%を設定する。 *現状値は2022（R4）年	再生可能エネルギー利用促進補助事業	再生可能エネルギー機器の購入等費用の一部を補助することにより、グリーンエネルギーの活用と木質バイオマス燃料の利用促進を図り、カーボンニュートラルをめざす低炭素社会の実現及び地域の活性化をめざす。
							森林環境ポイント制度	市民の森林整備や省エネ等の活動に対してポイントを付与することで、市民意識の向上を図り、2050年度のカーボンニュートラルの実現をめざす。
森林吸収系Ｊ－クレジット累計認証量	902	t-CO2	19,000	t-CO2	担当課保有の管理台帳	適切な森林整備を行った市有林等のCO_2吸収量をクレジットとして認証発行し、民間企業等への売却を通じて、財源を確保するとともに、市の環境施策へ還元するため、５年間で19000t-CO_2認証を設定する。	森林吸収系Ｊ－クレジット創出事業	間伐等の適切な森林管理を行った市有林においてCO2吸収量の算定を行いクレジットとして認証、発行する。創出されたクレジットは企業等が購入し、排出するCO2のカーボンオフセットやCSR活動として使用され、売却で得た収益は市の環境施策に活用する。
森林セラピー体験者数【延べ】	695	人	1,000	人	担当課保有の管理台帳	１年につき概ね50人程度の増加を目標とする。	森林セラピー推進事業	セラピーコースの維持管理・ＰＲを行い、観光入込客の増加と企業研修等による集客を図る。

具体的施策（３）関係人口の創出								
アウトプット指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
返礼品登録事業者数【累計】	48	事業者	67	事業者	担当課保有の管理台帳	１年ごとに概ね３件程度の増加を目標とする。	ふるさと納税推進事業	全国から寄付による応援をいただき、魅力あるまちづくりを進めるとともに、宍粟市の特産品をお礼の品として贈呈し、全国に向けて宍粟市をPRする。
ガバメントクラウドファンディング型ふるさと宍粟寄付金交付件数	0	件	5	件	担当課保有の管理台帳	１年ごとに概ね1件程度の増加を目標とする。	ガバメントクラウドファンディング型ふるさと宍粟寄付金交付事業	魅力あるふるさとづくり及び地域活性化のために団体又は個人が創意工夫して実施する事業に対し、自己資金の調達を円滑にするため、ふるさと宍粟寄付金制度を組み入れたガバメントクラウドファンディングにより集まった寄付金を交付金として、当該団体等に対して交付する。
ふるさと住民登録制度	－	件	2029年開始事業のため目標値未設定				ふるさと住民登録制度	地域での担い手確保や活性化につながり、宍粟市に居住していなくても「ふるさと住民」として本市との関わりを深めることができる制度。
保育園留学利用世帯数【累計】	－	件	63	世帯	担当課保有の管理台帳	1年目：3世帯、2年目：20世帯、3年目：40世帯　⇒　63世帯 1年目は、サイト立ち上げ、周知などを含め7月からの受け入れを想定した目標世帯数としている。2年目は一定の口コミや評価をふまえた20世帯、3年目は2年目の倍増を目標としている。	千種地域保育園留学事業	保育園留学をきっかけに、関係人口を呼び込むことにより、都市部等の子育て世帯と地域との新たな関係を創出し、地域活性化を図る。

重点目標３　選ばれる～若者や女性に選ばれ、世代を超えて誇れるふるさとをつくる～

基本的な方向３　地域ブランドの形成と誇りあるふるさとづくり

アウトカム指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
「将来的に宍粟市に住みたい」と思う中高生の割合	57.7	%	75.0	%	宍粟市アンケート調査	４人中、３人が将来的に宍粟市に住みたいと思うことを目標とする。 ※2019年調査：「36.1%」2014年調査「48.3%」		

具体的施策（１）木育を通じた森林文化の継承

アウトプット指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
園児木育イベントの開催回数	2	回	現状値を維持		担当課保有の管理台帳	森林大学校のカリキュラムの兼ね合いがあるため、現状値の維持を目標とする。	森林大学校での園児木育イベントの開催	市が行う木育推進事業の一環として、市内のこども園等の園児を森林大学校に招待し、森林大学校生が自身の知識を生かし、子ども達に木工の指導やチェーンソーや重機の実演を披露するなど、地域貢献を行う機会を提供する。
木育新聞発行回数	4	回	現状値を維持		担当課保有の管理台帳	１年に４回継続的に発行することを目標とする。	木育新聞（みどりじまん新聞）の発行	県立森林大学校と連携し、森林・林業や木育に関わる情報を市内の中学・高校生へ伝える広報物を発行する。
園児木育講座参加園数	11	園	14	園	担当課保有の管理台帳	全ての園で木育講座を行うことを目標とする。	園児木育講座の実施	市内のこども園等に通う園児が木や森林について学ぶことで、その大切さや宍粟市の魅力を理解することを目的として、木育絵本の読み聞かせやクイズ、木のスタンプ遊び等を盛り込んだ園児向け木育講座を実施する。
宍粟市産木材の学習机の整備率	56.1	%	100	%	小中計　56.1% （1208台/2150台） 小学校　50.2% （638台/1270台） 中学校　64.8% （570台/880台）	環境教育の一助として、全生徒の机を更新する。	宍粟材を活用した児童生徒用学習机整備事業	経年劣化し教育環境に影響がでている学習机を森林環境譲与税を財源に活用し学習机の更新を図る。また、児童生徒が宍粟産材と触れ合う機会を創出することにより環境教育の一助として、地域再利用促進と普及啓発を図る。
誕生祝い品贈呈数	出生に伴う贈呈のため、目標値設定無						誕生祝い品贈呈事業	市内で生まれた子どもに宍粟材を使った木のおもちゃを贈る。

具体的施策（２）「発酵のふるさと宍粟」を軸とした地域ブランドの発信

アウトプット指標	現状値		目標値		数値の出所（算出方法）	目標値の考え方	事業名	事業内容
発酵フェアでのアンケート回答者数	239	人	478	人	担当課保有の管理台帳	１年ごとに４０人程度の増加を目標とする。	しそう発酵フェアの開催	「日本酒発祥の地・発酵のふるさと宍粟」の認知度を向上させ、交流人口や関係人口の増加をめざすことを目的に、市内協賛店舗で酒粕や米麹を使ったメニューの提供や味噌づくり体験の実施等を行う発酵をテーマにしたフェアを開催する。
味噌づくりに参加する小学校数	10	校	現状値を維持		担当課保有の管理台帳	継続的に市内全ての小学校で実施することを目標とする。	市内小学校味噌づくりサポート事業	市内の小学校が行う次の取組を支援する。①生き物や植物の命の大切さを学び、地域の豊かな自然や文化への理解を深めることを目的とした大豆の栽培②地域に根付く『発酵文化』を身近に感じることで、ふるさと宍粟を愛する心を育くむことを目的とした味噌づくり
発酵食レシピ年間募集件数（小中学生向け）	－		34	件	担当課保有の管理台帳	小学校２人×１０校＋中学校２人×７校として34件の募集を目標とする。	発酵食レシピ募集事業（小中学生向け）	市内の小中学生等に向けて地域や家庭で継承されてきたレシピを募集し、選ばれたものを学校給食のメニューとして提供することで、食育及びシビックプライドの醸成につなげる。
発酵教室開催件数	５回		現状値を維持		担当課保有の管理台帳	継続的に１年に料理教室を４回、講演会１回を目標とする。	発酵教室の開催	発酵食の普及と市民の健康づくりにつなげるため、発酵食の料理教室や発酵について学ぶ講演会を開催する。